



~コラム~  
奄美の山  
ひとり歩き

昨年10月19~20日にかけて、奄美大島は未曾有の豪雨に見舞われて多くの方々が被害に遭われました（私も3日間職場に閉じこめられました…。）

「森の生きものたちはどうなったか」と思い、豪雨後に沢に行ってみました。増水し川岸の土や植生が剥ぎ取られたりしてて随分変わり果てた光景も目の当たりにしましたが、森の生きものたちは影響を受けつつも生き続けていました。

奄美の人と自然の「たくさんある」を見せつけられた気がしました。見習わないと。（T）



編集後記

昭和30年代後半頃の写真です。島のじいちゃんの写真を使いたくて、古いアルバムを見てたら、懐かしい昭和初期の名瀬の写真ありました。私が知らない頃の島の自然は、いったいどんな感じだったのでしょうか？もしも、タイムマシンが完成したら、まず島の過去へ、そして未来へも行ってみたい！と妄想したのでした（黒豚編集長）

連絡先：奄美群島観光連盟  
電話：0997-52-6032

# NEWS

このニュースレターでは、奄美群島にお住まいのみなさんに、世界自然遺産登録や国立公園指定に向けた取組状況をお知らせします。ぜひお読みいただき、奄美のことと一緒に考えていきましょう！

# LETTER

新しい年が明けました！2011年は何の年かご存じですか？まず、今年の干支は「うさぎ」ですね。奄美群島で「うさぎ」と言えば、アマミノクロウサギです。アマミノクロウサギなどが生息する亜熱帯照葉樹林も、世界に誇れる貴重な森林です。

この奄美群島の自然は、将来に向けて国立公園に指定すべき地域として改めて評価されました。



## TO WORLD NATURAL HERITAGE



**国** 立公園は、日本を代表する大切な自然を保護する

とともに、多くの人々に豊かな自然とふれあい、楽しんでもらい、自然の大切さについて理解を深めてもらうことも重要な目的とした制度です。

奄美群島にはこのような優れた自然がある一方、1年間に訪れる観光客数は40万人程度にとどまっており、これらの自然

を観光利用に十分活かし切れていない側面があります。

奄美群島が国立公園に指定されると、自然が観光資源としても脚光を浴びる可能性が高くなります。また、地域経済の活性化のためにも自然資源を持続的に活用した観光振興は重要です。

このため、奄美群島の優れた自然資源を上手に活用していくことにより、自然の保護と利用を

両立させた、持続可能な観光の推進について皆さんと一緒に考えたため、各島での検討を進めているところです。

昨年、奄美大島は豪雨災害にも見舞われましたが、今年は、皆さんにとって、また、奄美群島に生きる動植物たちにとっても素晴らしい年にになりますようにお祈りしています。

4ページ  
発信！

# 奄美

シマの  
自然と文化を

# 世界へ！

発行：環境省奄美自然保護官事務所・奄美群島観光連盟

「世界遺産はまたとないチャンス、雇用の創設に向けて地元から知恵を出してほしい」

■安栖特別地域振興官（国土交通省奄振担当）は、世界遺産への期待と住民の努力を呼びかけました。

鹿児島環境学プロジェクトに取り組む鹿児島大学、環境省、鹿児島県、徳之島3町は、2011年1月10日に「徳之島の未来、世界遺産～島の暮らし、産業・環境はどう変わっていくのか」をテーマにフォーラムを開催しました。

会場となった徳之島交流ひろば「ほーらい館」は、島の将来を熱く思う437人の参加



者で埋まり、会場にあふれた人はロビーに用意されたプロジェクターでフォーラムに耳を傾けました。

基調講演では、奄美諸島史に詳しい石上英一氏は、徳之島から日本史を捉えなおすことの重要性を、鹿児島大学学長補佐の小野寺浩氏は、島の発展が無名の人々の努力の積み重ねで成り立ってきたことを強調しました。

パネルディスカッションでは、ピンク色のハブが徳之島では時々報告されるなど、歴

史文化と自然の面から、奄美大島と異なる徳之島の魅力やユニークさの話が次々に飛び出しました。そして、世界遺産を目指す過程で、島を見直し、将来を語り合うことの大

切さが確認されました。

また、地元3町長からは徳之島が奄美群島の先頭に立つて世界遺産に向けた取組を進めたいとの力強い発言があり、最後に「徳之島フォーラム宣言」が行われました。

## 熱く盛り上がった徳之島フォーラム



### 「徳之島フォーラム宣言」

～徳之島の未来に向けて～

- 一、徳之島が日本のみならず、世界でも類いまれな自然と歴史文化の島であることを、本日のフォーラムで確認した
- 一、地域づくりの基礎は、この島の多様で豊かな自然と、先人たちが築いてきた歴史、文化の積み重ねにある
- 一、これらの資産は、豊かな徳之島づくりのために資するものとして、将来の世代に受け継いでゆかなければならぬ
- 一、しかしながら、もっとも大事なことは、島で生きる人々の存在であり、自信であり、誇りである
- 一、これらの思いを込めて、国立公園指定、そして世界遺産登録に全力をつくす

平成23年1月10日



「まずは自助努力、そして互助」と住民の努力を呼びかけるNPO法人クロウサギの里の松村博光さん。



■まず、島に住む自分たちが地域を知るために足元に目を向けることが重要である。

■奄美を知ってもらい、何を見せるのかといったことを、自分たちで考えていく必要がある。

■他地域にない奄美の特徴は「ゆっくりと流れる時間、緊張を解きほぐす空間、人々とその背景の文化・歴史・自然」といった総合力である。

■観光客は、自然だけでなく

地域の普段の姿を見せてあげると満足度が上がる。観光は数の増加ばかり考えるのではなく、「満足度」という質的部分も考えていく必要がある。

■見られるものと見られない

## 奄美市名瀬

11月8日



■左写真：ハマジンチョウ



もの、見せるものと見せないものがあつてもいい。

■ガイドの資質向上などによる「満足度」アップを図ると同時に、入林規制等も含めた自然への負荷軽減対策も考えしていく必要がある。

## 国立公園の奄美

奄美群島では、現在その一部地域の世界自然遺産登録を視野に入れた国立公園への指定が検討されていますが、国立公園の（観光）利用についての会議が開催されました。国立公園は自然を観光、レクリエーションや環境学習などの利用に活かすことによって地域活性化の役に立つという側面も持っていて、この利用の側面をどのようにしていこうかという会議です。自然や文化、観光の専門家、関係機関が集まり活発な議論がされ、次のような意見が特に印象に残りました。

■現状では、島を「農業の島」としか認識しておらず、観光利用については認識が低い。

■島には観光資源としても評価しうる多様な文化・伝統があるが、島に住んでいる人は意外にそういうものに気がついていない。



## 沖永良部島知名町

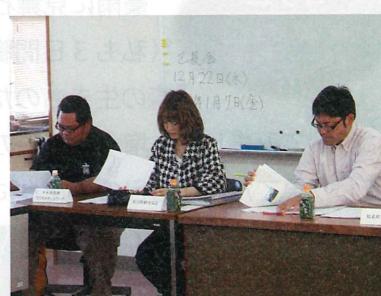
12月19日



■左写真：イソノギク



フレット・地図等による観光客や観光に来たいと思っている人々への情報提供等が不十分。商品化されているとはいえない改善が必要。



■専門ガイドと観光資源を見せる仕組みが必要。

## 利用とは？